

〔科目名〕 教育実習	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教職科目(必修)
〔担当者〕 鈴木 郁生・内海 隆・西村吉弘 Suzuki Ikuo・Uchiumi Tkakashi・ Nishimura Yoshihiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業開始時に明示する 場所: 同上	〔授業の方法〕 実習
〔科目の概要〕 実習校(高等学校)での2週間(64時間。ただし、実習校によっては3週間の場合もある。)の教育実習である。教育実習の主な内容は、1)実習校による講話、2)学習指導に関するもの(授業観察・見学、教材研究、指導案作成、授業担当、研究授業等)、3)特別活動、生徒指導に関するもの(HR 参観、HR 指導案作成、HR 経営参加等)、4)学校の運営機構、教職員の職務の理解(校内研究・研修会、諸会議等の参加等)である。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 3年秋学期終了までに教職に関する科目の単位修得見込みであること、及び教育実習事前指導を履修すること。教育実習を経験することによって、教職への意欲と自覚を深め、また自らの教師としての適性も考えることにつながる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 教職課程の総決算として、生徒理解や教科内容の理解、授業づくりなど、教師として必要な実践的指導力の基礎を身につけ、学校という組織の一員としての職責・義務を自覚して、教職への志向を確かなものとする。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教育実習の事前指導における内容と実習校での実際とのギャップをできる限り少なくするように配慮する。		
〔教科書〕 なし。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 商業・公民の教科書。詳細は授業時に指示する。 その他、資料集等。		
〔前提科目〕 「教育実習事前事後指導」		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 教育実習校からの教育実習報告書(評価シート含む)、教育実習日誌、実際に作成し実施した学習指導案などをもとに総合的に判断するが、実際の評価にあたっては、教職課程担当の3名の専任教員による。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響により実習校での期日等の変更には、臨機応変に対応する。		
〔評価の基準及びスケール〕 A:100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～ 0点		
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教育実習の事前指導での教育実習全般の理解を深めたことをふまえ実習に臨むことを期待している。また、実習期間中は、新型コロナ禍であることを配慮しつつ実習校と連絡をとり、実習の成果が上がるように努める。		
〔実務経歴〕 該当なし。		
授業スケジュール		

実習期間 (2～3週間)	教育実習校(高等学校)において、2週間ないし3週間の教育実習を行う。実習期間中においては、当該実習校で「ホームルーム指導」、「授業観察」や「授業及び研究授業」等を行う。
-------------------------	---